

# センシティブでタブー視されてきた歴史を いかにゲートキーピングしたか

— 中学校歴史的分野導入单元「歴史へのとびら  
：生理用品の歴史」の批判的省察を事例に —

岡山大学大学院 院生 別 木 萌 果  
広島大学大学院 院生 玉 井 慎 也

## I はじめに：「生理（用品）」の歴史的構築性を教材化する社会正義志向の社会科教育

近年の日本社会において徐々に変わりつつある社会的規範の一つが「生理（用品）」のタブー性である。実際、直近の公共メディアでも以下4つに代表される話題がクローズアップされている。

- ①生理用品を購入できない人への無償配布に取り組む全国581市区町村の「生理の貧困」対策に関する内閣調査（2021）の公表。
- ②「経済財政運営と改革の基本方針2021」への「生理の貧困対策」の初めての明記。
- ③生理用品を購入する際の選択肢の多様化（紙袋を断るというオプション追加）を目指したユニチャーム株式会社の「#NoBagForMe PROJECT」（2019年～）。
- ④「生理」について小学生から大学生までがスピーチするコンテストを開催した株式会社サンリオエンターテインメントの「Let's talk! in TOKYO」（2021年7月4日）。

以上で見た政策的・社会的な取り組みは、女性のエンパワメントに貢献するムーブメントと理解できる。一方、従来の日本社会で「生理（用品）」について語ることは、長期間に渡りセンシティブでタブー視されており、すべての人にとって明るいニュースではなかった。実際、「生理（用品）」をタブー視する歴史の継続性が、生理であることを隠す風潮や生理について女性同士でさえも語ることを回避・敬遠する方が良いとする個人的・社会的規範を構築し、女性の生きづらさを助長・再生産してきたと捉える見方がある<sup>1)</sup>。

こうした「生理（用品）」に対するタブー性は、学校という「小さな社会」においても同様に見られる。実際、「生理（用品）」のような性トピック／ジェンダー・トピックが「閉ざされた領域」<sup>2)</sup>や「空カリキュラム」<sup>3)</sup>として位置づけられ、学習対象・研究対象になりにくい傾向があった。

もちろん、女性の身体の機能や成長・性徴といった個人的側面を学ぶ保健体育科であれば、話題提供として先に見たような社会問題に触れる機会があるかもしれない。しかし、「生理（用品）」の社会的規範の再構築という目的に到達することは難しいのではないか。一方、社会的規範の反省を目標とした社会科歴史学習<sup>4)</sup>であれば、歴史的構築性を可視化する好事例として「生理（用品）」を扱うことができるのではないか。

「生理（用品）」というトピックが社会科の教室や学界の中で触れられてこなかった歴史の継続性が、「生理（用品）」をタブー視する社会的規範の助長・再生産に加担しているとすれば、学校や学界という「小さな社会」における「制度的・構造的・文化的不正義状態が是正されていない問題」として見ることができる。こうした視座が「社会正義志向の社会科」教育観<sup>5)</sup>である。

本稿の目的は、前述の視座に立ち、歴史的構築物としての「生理（用品）」を中学校社会科歴史的分野導入单元のメイン・トピックとして取り上げることができた2名（第一著者・第二著者）の社会科教師のゲートキーピングとその批判的省察を事例として記述することである。あくまでも事例だが、単なる单元開発の構想に留まらず、実践・省察まで行い、今後の教育実践や教師教育への示唆を得ながら、不正義状態の是正に寄与したい。

## Ⅱ 研究方法論

従来、社会科教育研究において新しいトピックを教材化する際には、単元構成の理論的根拠を設定し、それを検証する形で開発・実践を進める手続きが採られてきた。

一方、ただでさえ学習指導要領に記載されておらず、同時にセンシティブでタブー視されがちな傾向から教室の秩序の不安定化も懸念される「生理（用品）」を「どうにかして教室のゲートに通す」ためには、教師個人の理論的根拠の確立に留まらない別要素も加味した動的な調整プロセスや環境整備の必要性が生じる。

そこで本稿は、「ゲートキーピングの批判的省察」と「コラボレーションによる学びの場づくり」という方法論を活用し、第二著者が非常勤講師を務める国立大学附属A中学校・第1学年2クラス（合計80名）で実施した社会科歴史的分野導入単元「歴史へのとびら：生理用品の歴史」の開発・実践上の暗黙知（動的な調整プロセス）を「反省的实践家」<sup>6)</sup>として言語化する手続きを採る。

こうした従来とは異なる単元開発・実践上の動的なプロセスと環境を描く手続きによって、「社会正義志向の社会科」の視座に基づく教師が「生理（用品）」を教室のゲートに通す際の「鍵」や「壁」を解明し、今後追試行する際の基礎を形成したい。

### Ⅱ－ⅰ ゲートキーピングの批判的省察

批判的教育学の立場から見ると、「教師」とは、主体的・自律的にカリキュラムを調節する存在＝「ゲートキーパー」であると定義される<sup>7)</sup>。本稿においても、「社会科教師」は教育実践経験の中であらゆるカリキュラム（目標・内容・方法・評価）を教室のゲートに「通すか、通さないか。それはなぜか。」「通すならば、どう通すか。それはなぜか。」という問いを熟慮しながら意思決定し、単に授業の意図や環境の「実践的省察」のみならず、自身の「社会科」観などを編み直す「批判的省察」<sup>8)</sup>まで踏み込んで実施する存在として捉える。

日本のゲートキーピング研究<sup>9)</sup>は、「ゲートに通したカリキュラム」とその要因に焦点が当たりが

ちだが、本稿は批判性を先鋭化するため、「通さなかったカリキュラム」とその要因にも焦点を当て、社会科ゲートキーピング研究の拡張を図る。

本単元を開発・実践した第一・第二著者は、一般的に教室のゲートに通らず、むしろ回避・敬遠されがちなジェンダー・トピックを熟慮の上、通すという意味決定した。ただし、具体的な教材や授業の戦略を巡っては、「通す」という判断だけでなく、「通さない」という判断も十分あった。そこで、長期的なスパンから以下の①・②のリサーチクエスションに対する回答を時期区分しながら比較し、「ゲートに通さなかったカリキュラム」も解明していく。

- ①「生理用品の歴史」として、何がゲートに通ったか。それは、なぜか。
- ②「生理用品の歴史」として、何がゲートに通らなかったか。それは、なぜか。

### Ⅱ－ⅱ. コラボレーションによる学びの場づくり

批判的省察に向けては、「コラボレーション」、すなわち「一人では決して到達できない学びの付加価値を協働的に生産し、暗黙的な実践知を言語化する場づくり」が重要視されてきた<sup>10)</sup>。本研究においても、(A) 女性大学院生（第一著者：以下、便宜上「教師X」）と実践校の非常勤講師として第1学年社会科を担当している男性大学院生（第二著者：以下、便宜上「教師Y」）のコラボ、(B) 養護教諭と社会科教師のコラボ、(C) 中学校現場の社会科教師と大学の社会科教育研究者（大学生・大学院生・准教授）のコラボの機会をセットした。

### Ⅱ－ⅲ 省察のためのデータと手続き

表1は、批判的省察のためポートフォリオしたデータ・セットである（以下、便宜上「No.1～15」）。本稿では、No.12～15のデータから見てきた本単元のゲートキーピング上の転換点や鍵となる人物やイニシアチブに注目し、No.1～9のデータを「単元構想期（2019年11月～2020年9月）」、「単元調整期（2021年9月～11月）」、「単元確定期（2021年12月）」に分けて再構成する。

表1：省察のためのデータ・セット

リスト	データ（作成年月日）
授業計画	No. 1 指導案Ver. 1 (2020. 9. 23)
	No. 2 指導案Ver. 1 に対するコメント (2020. 9. 25)
	No. 3 指導案Ver. 2 (2021. 11. 29)
	No. 4 No. 1 対応のワークシートVer. 1 (2020. 12. 2)
	No. 5 No. 3 対応のワークシートVer. 2 (2021. 12. 5)
	No. 6 通信上のやり取り (2020. 9～2021. 12)
授業記録	No. 7 授業動画 (2021. 12. 1 & 2 & 6 & 8 & 15 & 16)
	No. 8 フィールド・ノート (同上)
	No. 9 ワークシートVer. 3 (2021. 12. 2 & 6 & 8 & 15)
	No. 10 プレ・アンケート (2021. 12. 2)
	No. 11 ポスト・アンケート (2021. 12. 15)
授業回想	No. 12 クラス移動中の反省会メモ (2021. 12. 1 & 6 & 8)
	No. 13 授業後の車内や研究室での反省会メモ (同上)
	No. 14 養護教諭へのインタビュー (2021. 12. 1)
	No. 15 教師X・Yの相互インタビュー (2021. 1. 16)

### Ⅲ 研究結果

#### Ⅲ－ⅰ 単元構想期：「ねがい」の醸成

本単元の「たたき台」となる授業構成（以下、目標・内容・方法・評価を含意）は、教師X自身の強い当事者意識を背景に、高校教員を志望していたこともあって高校生向けに構想した指導案Ver. 1 (No. 1) を出発点とした。

2019年11月に教師X自身が月経困難症であることを婦人科で診断され、その経験を書いたブログに反応した同性の友人に感謝されたことを契機に性教育への関心が高まった。

2020年4月には性教育YouTuberが登場するなど、社会的関心がネット上で高まる中で、個人の問題としてだけではなく社会の問題として性を捉え、保健体育科だけではなく社会科の授業でも扱いたいと考えるようになった。しかし、保健の授業でさえ扱われにくい「性交」や「中絶」の問題を社会科で扱うことは、生徒の心理的な負担が大きく、保護者や管理職の同意を得ることがとても難しいだろうとも考えていた。

2020年8月、自身の生理の悩みを祖母に話したところ、祖母の幼少時代は便利な生理用品がなかったことを聞き、「生理用品の歴史」をトピックにした授業構想を練るようになる。

以上の経緯を踏まえ、2020年9月23日に予定されていたオンライン研究会で構想を初めて第三者

に発表する準備を本格的に始めた(No. 1)。表2は、指導案Ver. 1の概要である。「性という人に相談しにくい問題について同じ悩みを持つ女子生徒をエンパワメントしたい」という「ねがい」を込めていたが、構想した授業をすぐには実践できないと考えた。なぜなら、教師Xは当時大学院生であり実践する場がない上に、実践する場合は管理職の同意や生徒への配慮などが必要となるセンシティブで難しいトピックだと認識していたからである。

実践がすぐにはできないとわかっていても、授業構想を粘り強く継続できた背景には、やはり自身の経験と普段から研究や自らの体調の悩みについて相談していたパートナーの存在があった。

表2：「単元構想期」における計画（No. 1・4）

位置づけ	高校2年生の日本史B特設投げ込み単元
時数	2時間（以下、「第1次」および「第2次」）
目標	①生活史と男性中心的な政治史の関係を捉え、女性の健康問題（生理）に対する社会的規範の変化を特定する。 ②現在の自分とつながる人権が語られず吟味されてこなかったことを理解し、自分自身も規範を再生産してしまう可能性がある歴史の主体の一員としての自覚を高める。
第1次の資料と活動	(1)大手百貨店で導入された「生理バッジ」のシステムに関する賛否を議論する。 (2)現代の生理用品に関するニュースやYouTube動画を検索して、関心の高まりを理解する。 (3)江戸以前の生理関連の歴史年表を確認する。 (4)「ケガレ」概念の形成過程を4つの資料（古事記の一節、女人禁制の風潮解説文、月経小屋の分布図、地獄極楽図）に基づき推論する。
第2次の資料と活動	(1)明治以前はタブー視されてきた生理の話題が明治以降の婦人雑誌で取り上げられるようになる理由について、2つの資料（婦人雑誌の一節）に基づき推論する。 (2)外国産の生理用品を購入できない貧しい生活をしてきた女性の生理の悩みについて、女性の声や姿が記されている3つの資料（1907年生まれ女性の聞き取り、女工哀史の一節、工場で働く女性の写真）に基づいて推論する。 (3)1960年代、女性たちが「生理の日」を「アンネの日」と呼ぶようになる理由を4つの資料（婦人雑誌、アンネ株式会社の広告、アンネ社に届いた感謝の手紙）に基づき推論する。 (4)今日の生理用品の改善に伴うタブー性の変化を2つの資料（企業が実施したアンケート調査の結果、避難所での生理対応に関する防災知識解説文）に基づき特定する。 (5)パフォーマンス課題として、日本製の生理用品の市販化が遅れた理由に関する考えを記述する。

パートナーとはSNSを通して「正直、生理の歴史を詳細に学ぶのは気の滅入るようなこと」、「女性が苦しんできた慣習や制度を学ぶのもつらい」(No.6)と相談していた。正直、授業構想を通じて当事者として生理のあらゆる問題に真正面から向き合うことは大きな精神的負担でもあったが、異性のパートナーからの後押しが授業構想を下支えていた側面もあった。

また、所属する大学院の先輩や指導教員の存在も大きかった。指導案Ver.1 (No.1) では、「性の問題を社会科で扱ってみたい」というトピックが先行した授業構想だったため、年間カリキュラム上の位置づけや関連する目標や方法を明確にして授業設計することができていなかった。こうした悩みに対して、「規範反省学習の理論を参考にしてはどうか」(教師Xの指導教員)、「保健の授業でやるべきことと社会科の授業でやるべきことを分けたら授業の位置づけも明確になるのではないか」(大学院の先輩)などの助言をいただき、当初見出せていなかった社会科における「生理用品の歴史」の位置づけを描けるようになった。

2020年9月23日の研究会における授業提案では、「提示する教材の数が19個もあって多すぎる」、「男性である自分には実践が難しいと思う」などの指摘とともに、「この授業で救われる生徒がいると思う」(いずれも若手教師)などの後押しも受けた(No.2)。肯定的評価は、授業構想の自信や実践意欲の向上につながった一方、実践のハードルの高さも感じた時期だった。

### Ⅲ-ii 単元調整期：「ねらい」の熟議

本単元の「屋台骨」となる授業構成は、教師Xのイニシアチブの下、実践校の養護教諭や社会科担任の教師Yとの熟議の中で調整した。

教師Xが実際に実践できる兆しが見え始めた転機は、2021年9月19日に訪れた。広島大学・岡山大学の大学院生がオンライン交流する場を教師Xが作り、教師Yも参加していたのである。

教師Yは、同じ研究室の大学院生が性的マイノリティの問題を社会科と保健体育科で連携して扱った実践的研究<sup>11)</sup>が学術論文として刊行されたことを契機に、2021年7・8月、実践校で地理的

分野の学習としてジェンダー・ステレオタイプの解体を扱っていた<sup>12)</sup>。実践校でジェンダーをメイン・トピックとして扱ったのは、2年間の非常勤講師生活の中で前述の地理学習が最初だった。生徒のジェンダー・ステレオタイプと向き合う姿と同時に、その全てが解体できず、むしろ諦観する姿も診断的評価の中で把握しており、継続的なカリキュラムを計画したいと考えていた。

そこで、年間カリキュラムの系統性を意識して、12月からスタートする歴史的分野導入単元でもジェンダー・トピックを扱うことで、教師Y自身の研究関心とも関連する「歴史的意義」の再構築を促そうと考えていた<sup>13)</sup>。こうした実践的文脈の中で、先述の大学院生交流会が開催され、教師Yから教師Xに対して「生理用品の歴史」の実践を勤務校2クラスで実施することを直接提案した。

2021年10月初旬からは、随時オンライン媒体を活用し、教師Xが構想していた指導案Ver.1のA中学校バージョンへのアレンジについて熟議し、指導案Ver.2を作成した(No.3)。特に、「ねらい」を巡る熟議には時間を費やし、「規範反省学習」や「歴史的意義の再構築を促す学習」のビジョンを共有した。また、以下(1)～(7)に関する教師Yから教師Xへの提案(No.6)を踏まえて、表3で示す指導案Ver.1からの修正事項を合意した。

表3：「単元調整期」における計画(No.3・5)

変更前	変更箇所	変更後
2時間の特設	時数・位置づけ	6時間の中単元
教師X	授業者	教師XとYの共同
第1次の冒頭	授業目的の伝達	第0次を通して
なし	第0次 (事前学習)	①性徴、生理の仕組み ②歴史的な見方・考え方
生理バッジのシステムの賛否を議論	第1次 (導入)	現代における生理関連のニュース記事の分析やiPadを活用した調査
生理に対するイメージ改善や生理用品の進化を学ぶ	第2次 (展開)	進歩的な流れだけではなく、時代の恩恵を受けることができていない人の歴史にも触れる
学んだことを要約し、自分の意見を書く	パフォーマンス課題	学校内で取り組めるパフォーマンス課題(暫定の3案)



- (1) 【位置づけ】投げ込みの特設単元として生徒に捉えられてしまうと学びの系統性が弱くなるので、前後に学習の必然性を実感できる時間を加え、中単元レベルで実施してはどうか。
- (2) 【授業者】当初は、教師Xのみが発問や指示をして教師Yは極力介入しないつもりだったが、通常授業との接続や教室の雰囲気の安心感を重視し、教師Yも積極的に介入して良いか。
- (3) 【授業目的の伝達】教師Xは実践上の配慮事項として男子生徒からの冷やかしの発言によって女子生徒が傷つくことを恐れ、第1次の冒頭で授業の意図やルールを生徒に説明することを想定していたが、教室の雰囲気を張り詰め過ぎて逆に男子生徒を学習から閉め出してしまう可能性があるため、事前にオンラインで教師Yを紹介する機会に合わせて説明してはどうか。
- (4) 【第0次】生理に関して社会科が扱うことへの不安・疑念を少しでも解消し、生理を巡る基本的な用語の理解や家庭との連携の重要性に関する理解を前提に「生理用品の歴史」を見ることができるよう、事前に養護教諭による授業を取り入れてはどうか。養護教諭に相談したところ、非常に協力的で「性徴」を取り上げてはどうかと提案をいただいた。養護教諭の実践後には、「今でこそ当たり前になりつつある身近なもの」について、歴史的な見方・考え方について学ぶ活動を組み込み、小学校で学んだ歴史や自身の人生をふり振り返りつつ、政治史・経済史よりも自分史・社会史に注目させてはどうか。
- (5) 【第1次】教師Xが淡々と資料を解説する場面が多いため、生徒がiPadを使ってニュースを調査・交流する学習活動を組み込んでどうか。
- (6) 【第2次】生理に関する進歩的な歴史に光を当て過ぎると、生理に悩んでいた人が影になってしまう。単線的・進歩的なストーリーに終始しないよう教材配列を工夫してはどうか。
- (7) 【パフォーマンス課題】学校内の問題に取り組むか今後の歴史学習に寄与する3案はどうか。  
「A案：生理用品の配布や女子トイレへの配置に関する生徒総会への議題提案書作成（歴史的経緯の説明、予想される賛成・反対の見解整理、自身の見解表明）」、「B案：生理用品の歴史に

関する年表作成（出来事・人物の決定、取り上げた判断基準の説明、教科書と異なる時期区分）」、「C案：生理用品の歴史に関する広告作成（象徴的な写真の選択、選択した意図の説明）」。

上記の修正事項の合意に加え、2021年10月12日には教師Yが実践校の管理職（校長、副校長）、社会科主任、養護教諭に授業構想を共有し、後押しを受けたことにより、本格的実施が決まる。

また、教師Yが大学院ゼミで本単元を指導教員に相談して社会科教育実践上の新規性や同時期に執筆した別の「ゲートキーピングの批判的省察」に関する事例研究<sup>14)</sup>との関連を見出せたことも、研究史的価値・自分史的価値を感じる機会となり、教師Yの内発的動機づけが高まった時期だった。

### Ⅲ－iii 単元確定期：「教室の実態」の加味

本単元の「竣工」となる最終的な授業構成は、実践校で教科担任を務める教師Yのイニシアチブの下、教室の実態を加味して確定した。

表4は、ワークシートVer. 3 (No. 9) に基づく「単元確定期」の計画である。以下、表5で示す3・4時間目の授業記録<sup>15)</sup>と照合しながら授業直前の変更・確定の手続きを中心に示す。

2021年12月6日の3時間目の授業直前に変更した点は、導入活動の一層の充実化である。4つの新聞記事を教材として確定し、時間が余った生徒にはiPadでニュース検索する活動を約10分保障することで、「生理」という用語を記述・発言する場面で躊躇しない雰囲気づくりを意図した。

12月8日の4時間目の授業直前に変更したことは、大きく2点ある。1点目は、人物カードの導入とそれに連動する「荻野吟子」の教材化および総括的課題の修正である。教師Xが構想・調整してきた指導案では、「生理用品の歴史」の進歩に貢献してきた人物として「坂井泰子」のみを取り上げ、「生理用品の歴史」の進歩を描く総括的課題を設けていた。教師Yは、坂井泰子を選択してきた教師Xの歴史的意義の判断を生徒が分析するためのツールとして「キーパーソン・カード」を前日に着想する。また、比較する形で「荻野吟子」を新たに教材化し、2人目のキーパーソンに位置

づけた。なぜなら、荻野は、4時間目の導入で読み取る婦人雑誌の刊行を手掛け、開業の地・北海道で銅像化されており、没後100年を記念した2013年の新聞特集化や2019年の映画化など、社会的な重要人物としてクローズアップできるからである。さらに、着想は坂井や荻野とは異なるタイプの「生理用品の歴史に関わる3人目のキーパーソン・カードを作成する」という一貫した総括的課題にもつながった。

2点目は、教師Yが女性の声の聞き取り資料をセンシティブで一部の生徒にとっては危険だと判

断して削除したことである。聞き取り資料は、教師Xが最も重要な資料として位置づけていたもので、削除された代わりに坂井泰子への感謝を教師Xが自身の語りとして即応的に導入した。背景には、「生理の大変さを男子生徒は頭ではわかっても心ではわかっていないと思う。教師自身の感情も交えて話してもいいと思う」(3時間目の観察に来た大学院生)という助言があった。一方、その瞬間の回想では、教師Yが「道徳っぽくて、ヒヤッとした」(No.15)と発言しており、教師Xと教師Yの見解表明の是非も見えた場面だった。

表4:「単元確定期」における計画(No.9)

時数	授業日	学習目標	学習活動	構造
1	12/1	【知識・技能】「成長・性徴」のタイミングが人によって異なること、歴史は記憶と記録の中から選択されることが、歴史には意図的に隠された過去もあることを理解する。 【知識・主体性】生理の仕組みや生理用品のCMをふり返り、自分との関連性を意識する。	①第一次成長と第二次成長の時期を予想する。 ②養護教諭の母子手帳に記録された息子の身長や体重の変化(成長度合い)を計算する。 ③第一次性徴と第二次性徴の時期を予想する。 ④生理の仕組みを図やCMで理解する。 ⑤「記憶と記録の違い」「歴史と過去の違い」について、自分史(乳児期の出来事や思い出)を事例に理解する。	i…「歴史的意義」の性質を自分史・社会史の中で理解
2	12/2	【知識・技能】「今でこそ当たり前になりつつある身近なもの」を知るためには、継続性と変化を特定することが有効な手段であることを理解する。 【判断力】教科書や資料集の年表、既知の情報の中から重要な過去を選択する。	①ブレ・アンケートに回答する。 ①現時点で知っている歴史の中から重要な過去の「ひと・もの・こと」を3つ選択する。 ②「メイク・衣装(平安～)」「学校(明治～)」の変遷に関する動画を視聴する。 ③教師Xとオンラインで対話し、学習の見通しを立てる。	
第3時までの宿題		【技能・主体性】関心のある身近な歴史について自主的に調べる。	①YouTubeで調べたい「当たり前になりつつあるもの」の歴史を選択する。 ②調べたいと考えた理由を説明する。	
3	12/6	【知識・技能】生理用品をタブー視しない女性の声が反映された社会運動が近年活発に展開され、テレビニュースや新聞記事にも取り上げられていることを理解する。 【思考力】生理に関する史料がわずかな数しかなく、9世紀以降の史料には「けがれ」として生理が記された背景として、男女格差や宗教的な価値観との関連を考察する。	①「#NoBagForMe」「生理の貧困」「生理休暇」の新聞記事のいずれかを読み取り、関連情報をiPadで調べる。 ②縄文時代～江戸時代までの生理用品に関する史料の数がわずかである理由を予想する。 ③日本各地の月経小屋の分布を読み取り、1964年まで残っていた理由を予想する。 ④3つの史料(9世紀～12世紀の生理に対する考え方の説明文)を読み取り、生理の見られ方の変化を説明する。	ii…「歴史的意義」の性質を「生理用品」の歴史の中で理解
4	12/8	【知識】日本初の国家資格を持った女性医師である荻野吟子と日本初の生理用品販売を手がけた坂井泰子が近年再びクローズアップされている理由について情報媒体を読み取り理解する。 【思考力】生理用品の普及・進化の背景として、戦時や経済成長期の女性の役割変化との関連を考察する。また、声なき女性の声もあることを考察する。	①明治～昭和の生理用品の歴史を語る上で教師が重要だと判断した「荻野吟子」「坂井泰子」の人物カードをインターネット情報や新聞特集記事や年表に基づき作成する。 ②日清・日露戦争期と高度経済成長期に制作された生理用品広告の意図を分析・比較する。 ③1910年時点の生理用品の値段を同時期の他の商品と比較して消費者層を予想する。 ④1925年に発売された『女工哀史』に記述された女性の声を分析する。	
第6時までの宿題		【思考力・主体性】生理用品の歴史に関する重要人物を調査する。また、他者と協力して取り組む課題を提案する。	①荻野吟子・坂井泰子とは異なるタイプの「声」を聴くことができるキーパーソンカードを作成する。 ②取り組みたいパフォーマンス課題を提案する。	
5	12/15	【思考力・主体性】生理用品の歴史についてふり返る。	①生理用品の歴史を大観する。 ②ポスト・アンケートに回答する。	iii…歴史を変える主体として学校に提案
6	12/16	【判断力・主体性】友達の問題意識に基づくパフォーマンス課題に共感する。	①提案されたパフォーマンス課題を検討する。 ②パフォーマンス課題を2つに絞る。	
冬休みの宿題		【判断力・表現力・主体性】行動を起こせば、自分たちの学校の制度を変えることができる一員としての自覚を持ち、問題状況に対する是非の判断と見解表明をする。	「自分たちの学校の女子トイレに生理用品を無料でおくべきか?」「自分たちの学校の欠席制度に生理休暇を設けるべきか?」のいずれかの問いを選択し、自分の立場とその理由や証拠について歴史的に説明する。	

表5：授業記録に基づく3・4時間目の再現 (No.7～9)

時数	段階	教師の指示 (■白黒反転)と発問 (SQ) ※ i・ii→各組限定	生徒の発言 (SA) ※ i・ii→各組限定
	導入 30分	<p>■ゲストティーチャーと観察者の紹介</p> <p>■資料提示：「生理用品」を巡る企業HPや新聞記事</p> <p>SQ1：「NoBagForMe」「生理の貧困」「生理休暇」は、いつから取り上げられるようになったのか？4つある資料の中から1つを選択して読み取り、早く終わったらiPadでさらに調べてみよう。</p> <p>■机間指導：資料読み取りポイントの指摘とiPadの検索方向づけ</p> <p>SQ2：社会的な見方は変わっているが、個人的な見方は変わっているだろうか？事前に回答したクラス・アンケートやその元になっている一般社会の世論調査を見てみよう。</p> <p>■クラス・アンケート結果及び公益財団法人プラン・インターナショナル・ジャパン (2021)「日本のユース女性の生理をめぐる意識調査結果」(回答者：15歳から24歳までの「生理がある」と回答した2000名の女性)の提示 (i組はスクリーンに表示、ii組は非表示)</p> <p>SQ3：「生理についてオープンな社会に変わっている」と授業の最初に思ったかもしれないが、全員そう思っているだろうか？</p> <p>■生理用品に対する見方が人・時代によって違うことを確認</p> <p>MQ：生理用品を巡る見方は、過去と現在で同じか・違うか？それはなぜか？</p>	<p>i：女子生徒が「(この授業に) 男子いる？」と小声で発言。</p> <p>SA1：2019年ごろからの生理用品に関する取り組みやニュースが資料には示されている。生理を取り巻く環境は、特に最近になって変わってきている。</p> <p>SA2：生理に関して「人に相談しづらい」「特に男性には話せない」「全く人と話す機会がない」という回答が多い。</p> <p>SA2：男子生徒2・3名が騒つく(「生理について男性に話さない理由は興奮するから」という意見や「相談相手が父親0.9%という結果への嘲笑反応」)。</p> <p>SA3：「まだオープンではない」「オープンにしたいくない」と思っている人もいる。</p>
	3時間目 展開 I 20分	<p>■資料提示：旧石器時代～江戸時代までの生理用品に関する年表</p> <p>SQ4：縄文・奈良・平安・室町・江戸時代における5つの史料(ヒント)から「昔の生理用品」について十分知ることができるだろうか？</p> <p>SQ5：食べ物や着物に関する史料は残っているのに、生理用品に関する史料(ヒント)が少ないのは、なぜだろうか？</p> <p>SQ5-1：ヒントがワークシートに少ないことは先生による「意地悪」だろうか？実際にはもっと多くのヒントがあるだろうか？</p> <p>SQ6：「生理は軽視されて歴史に残らない」という意見もあったが、そもそも「歴史(史料)を書く人」はどのような人だろうか？</p> <p>SQ7：生理用品についての歴史が残っていないと困るだろうか？</p> <p>■クラス全体へ挙手を求める</p> <p>※i組では「①困ると思う人?、②困らないと思う人」という順番で聞き、過半数が「困らない」に挙手。ii組では「①困らないと思う人?、②困ると思う人?」という順番で聞き、過半数が「困る」に挙手した。</p> <p>■歴史は、文字だけでなく建物からも知ることができることを確認。</p> <p>■資料提示：日本各地の月経小屋の分布図、1964年まで使用されていた福井県敦賀市の月経小屋の写真</p> <p>SQ8：なぜ、月経小屋というものが日本各地に作られたのだろうか？</p> <p>■資料提示：仏教的価値観が日本へ普及された9世紀から12世紀にかけての生理に対する見方を示した史料の現代語訳 (①奈良時代の疫病蔓延を背景とした記述、②平安時代の山岳信仰を背景とした記述、③鎌倉時代の血盆経の普及を背景とした記述)</p> <p>SQ9：平安時代ごろを前後に、「生理(用品)」に対する見方は、どのように変化したのだろうか？3つの史料記述の中で、「女性に対する見方」を知ることができる箇所の色ペンでハイライトを付けよう。</p>	<p>SA4-i：え？これだけ？悲しい。</p> <p>SA4-ii：平安以降綿が生理用品だったと予想はできるが、平安以前はわからない。</p> <p>SA5-i：生理は他に比べて軽視されていたから、これ以上ヒントはないと思う。</p> <p>SA5-ii：けがれたものだと思われていたから、史料に残さなかったと思う。</p> <p>SA6：偉い人。貴族。男の人。</p> <p>SA7-i：昔これがあつたから、今これが発展していることがあるから困る。</p> <p>SA7-ii：現在の女性の差別も含めて昔の生理のことを知ることでもわかるから困る。(困らないという意見もあった)</p> <p>SA8：平安時代は華やかで女性の生理には血が関係してくるので、その時代の人は多分血を嫌っていたと思う。だから女性は離れたところで過ごしていたのだと思う。</p> <p>SA9：①「けがれたものを排除したい」、②「女性が生まれるがらにして罪深けがれてるものという理由によって聖域から女性を排除したり女性を不浄視したりした」、③「女性は生理や出産の際に経血で汚すため死後に地獄へ落ちる」の箇所にハイライトを付ける。</p>
	4時間目 展開 II 30分	<p>■復習後に資料提示：明治～令和時代までの生理用品に関する年表</p> <p>SQ10：明治時代と言えば、どのようなイメージを持っているだろうか？小学校の頃に学んだ出来事や人物を思い出して挙げてみよう。</p> <p>SQ11-ii：いま挙げた人物の共通点は何だろうか？</p> <p>SQ12-ii：女性の人物は挙げられるだろうか？</p> <p>■資料提示：荻野吟子・坂井泰子についての人物カード、新聞記事</p> <p>SQ13：教科書には載っていない荻野吟子さんと坂井泰子さんを今日、先生たちがキーパーソンとして紹介したのは、なぜだろうか？カードや新聞記事を読み取り、早く終わったらiPadでさらに調べてみよう。</p> <p>■教師X見解表明：「私は生理が来るたびに坂井さんに『ありがとう』と思って感謝しています。だから、今日取り上げました。」</p> <p>■教師Y見解表明：「女性初の医師免許の国家資格を得た荻野吟子さんは、私の出身地・北海道で開業し、銅像になっています。また、没後100年を記念した新聞特集や映画でも取り上げられています。」</p> <p>SQ14：荻野さんは、なぜ江戸時代までは史料にあまり残されていなかった生理について雑誌を使って広めようとしたのだろうか？記事が書かれた19世紀末や20世紀初頭の出来事と関連づけてみよう。</p> <p>■クラス全体へ挙手を求める</p> <p>※ii組のみ、「①国のため?、②国のため?」という順番で聞いた。</p> <p>SQ15：坂井さんは、なぜ昭和時代・戦後に生理用品を広めようとしたのだろうか？1960年代の出来事と関連づけてみよう。</p> <p>■クラス全体へ挙手を求める</p> <p>※ii組のみ、「①国のため?、②女性のため?」という順番で聞いた。</p> <p>■前時・本時のワークシートをふり返らせて、MQに回答させる</p> <p>MA：生理用品は、奈良・平安時代の仏教の考え方に影響を受けて明治時代ごろまで「けがれ」としてタブー視されてきたが、明治時代の荻野吟子さんと昭和時代の坂井泰子さんの貢献もありオープンな話題になり、今日では彼女らの活躍が再評価されて注目されている。</p>	<p>SA10-i：明治維新、明治天皇。</p> <p>SA10-ii：大久保利通、伊藤博文、東郷平八郎、木戸孝允、勝海舟、倒幕派。</p> <p>SA11-ii：男性。</p> <p>SA12-ii：平塚雷鳥、市川房枝</p> <p>SA13：荻野吟子さんは、男性医師からの診察で恥ずかしい思いをした経験があり、女性医師になることを決断した。そして、1885年に女性初の医師免許の国家資格試験に合格した後、「婦人衛生雑誌」を出版するなど、女性の衛生管理に貢献した。坂井泰子さんは、1961年に日本初の使い捨て生理用品「アンネナプキン」を販売し、ナプキン使用率の向上に貢献した。</p> <p>SA14：(2分・個人、3分・意見交流) 今まで「けがれ」として扱われてきた生理の見方を変えたかったから。富国強兵のために月経に関する知識を提供して人口を増やす必要があったから。(※半数ずつ)</p> <p>SA15：(2分・個人、3分・意見交流) 経済成長期に社会進出した女性が月経期に不快感のまま働いていたため。所得が高くなり生理用品を購入する人が増えたから。(※ほぼ全員が「②女性のため」に挙手)</p>
	終結 20分	<p>SQ16：確かに進化的傾向はある。これでハッピーエンドだろうか？</p> <p>SQ17：明治時代の頃の女性は、全員が雑誌を買ったのだろうか？</p> <p>■資料提示：『婦人世界』に示された生理用品(月経帯)の値段とその他の商品や公務員の初任給との価格比較図、『女工哀史』の記述の一部</p> <p>パフォーマンス課題：生理用品を巡る見方を知るためには、どのような歴史的人物の声を聴けば良いだろうか？ 荻野吟子・坂井泰子とは異なる「3人目」のキーパーソンカードを作成しよう！</p>	<p>SA16：いや、違う。全員がそうではない。</p> <p>SA17：1910年時点での生理用品の値段(1円80銭)と雑誌本体(1円15銭)や米(1円12銭)の値段はほぼ同。購入できなかった女性も実際にいた。</p>



#### IV 考察・示唆：ゲート通過を左右する鍵と壁

以上で記した単元「生理用品の歴史」に関わるゲートキーピングとその要因を構造化すると、図1のように整理できる。図1には、3つの時期区分（**白黒反転箇所**）ごとに、右側では「ゲートに通したものとその理由」、左側では「ゲートに通さなかったものとその理由」を示している。

では、本単元を事例に見たとき、センシティブでタブー視されてきた歴史の教室へのゲート通過を左右する鍵や壁の特質とは何だと言えるか。以下、3点の特質（鍵や壁）を考察・示唆しよう。

#### IV-i 多様な「当事者」の声のキャッチ

1つ目の特質は、多様な「当事者」の声をキャッチすることがゲート通過に強く反映したことである。本稿では、従来のセーフティなカリキュラムではなく、「生理用品の歴史」というリスクを伴うカリキュラムのゲートキーピングに焦点を当て、「生理（用品）」というトピックを社会科の教室のゲートに通した。こうした意思決定の根底には、単元構想期における教師X自身の当事者意識の芽生えや同様の当事者意識を持つ他者・団体の存在、エンパワーしたい当事者の存在があった。



図1：本単元のゲートキーピングとその要因



また、単元確定期における「女性への聞き取り」の教材を排除するという教師Yの意思決定を尊重しながらも、4時間目の授業中に「教師X自身（女性）の声」を即応的にカリキュラム化した意思決定の場面では、教師X自身の経験の影響が顕著に表れていた。そして結果的に、教師Yの社会科観から回避傾向のあった壁を乗り越えていた。

もちろん、従来の開発・実践研究のように理論的根拠を具体化していくことも単元構想期から単元確定期にかけて図られていたため重要な戦略である。ただ、それ以上にセンシティブでタブー視されてきたカリキュラムを教室のゲートに通過させるためには、「教師」や「市民」として当事者意識を持つ社会正義の問題が何かを自己分析し、同様に当事者意識を持っている人の考えをキャッチすることが重要な戦略と言えよう。

今後、同様の実践をする場合には、「ゲートキーピングの批判的省察」という本研究が採用した手続き、すなわち「教室に通した／通さなかったカリキュラム」のゲートキーピングを「時期比較」で捉え、当初から継続あるいは排除した暗黙知の「ねがい」や「ねらい」を言語化する機会を通して、自身の経験や信念との関係性の中で単元を構想・調整・確定していくことが鍵となるだろう。

#### IV-ii 生徒の心理的負担への配慮

2つ目の特質は、生徒の心理的負担への配慮がゲート通過に強く反映したことである。特に、本単元のようなセンシティブでタブー視されがちなトピックを扱う場合には、特設の投げ込み単元として実践すると、かえって教室の不安定化や不正義状態を生み出してしまう可能性がある。だからこそ、保健体育科でも扱われにくく、生徒の心理的負担や保護者・管理職の同意の必要性を考慮した際に「性交」「中絶」というトピックは社会科で扱うのが困難だという教師Xの意思決定が単元構想期の段階でなされていた。また、教師Yから教師Xに対して中単元レベルで「生理用品の歴史」をパッケージ化する位置づけへの変更や教材の精選・配列の変更、そして単元冒頭での男子生徒への注意喚起は事前に実施するよう変更するなどの提案がなされていた。

上記の意思決定は、生徒の心理的負担の緩和を最優先したものであり、生徒が安心できる事前事後の教育的フォローを複数検討し、教師が自身の権力性を自覚した事例である。このように社会正義を志向する教育行為が生み出す教室の構造的不正義を予見することが重要な戦略と言えよう。

今後、同様の実践をする場合には、本単元のように、歴史的に距離を置いて探究させることで「生々しい問題」の「生々しさ」を極力感じさせない単元構成が鍵となるだろう。あえてレリバンスの弱いファーストステップの中単元の実践がクリアできれば、いよいよ「生々しい問題」を「生々しく」取り扱うレリバンスの強い学習もできるようになるのではないだろうか。

一方、教師X・Yもそうであったように、学部生や大学院生など入職前の教員志望学生やセンシティブでタブー視されてきたトピックを初めて教室のゲートに通過させようと検討する教師は、やはり漠然とした「仮想の生徒」を学習者像として設定する傾向にあるため、慎重になり過ぎることは、ゲート通過の壁にもなると言えよう。

#### IV-iii 多様な専門家との協働・連帯

3つ目の特質は、多様な専門家との協働・連帯がゲート通過に強く反映したことである。従来、ゲートキーピングは教師個人の主体的・自律的な行為として捉えられがちだったが、こうした傾向は教育行為の個人責任化をもたらし、本単元のようなセンシティブでタブー視されてきたトピックのゲート通過の壁となってしまうだろう。

一方、本単元のゲートキーピングに際しては、目的や責任の共有、異なる生活経験や専門的知見の交換がリスク分散に向けて重要と考え、大学院生交流会をきっかけとした教師Xと教師Yの協働、子どもの心理的安全性の確保を目的とした社会科教師と養護教諭の協働、実践の理論的根拠や意義に関する助言・後押しを受ける環境整備としての大学関係者との協働を図っていた。

もちろん、コラボ相手との目標観・授業観が決して100%同じではなく、それぞれの立場性・権力性が異なる状況での協働的なゲートキーピングには、主導権・決定権を握る存在が生まれる。その

中で、連帯感を形成してコラボしていくことがリ  
スク分散という観点から見ると鍵となる。

## V おわりに

本稿は、少なくともA中学校の2つの教室とい  
う「小さな社会」において、「生理（用品）」のタ  
ブー性を解体・再構築する意思決定とそれを机上  
の理想論で留めず、教育実践の実行まで現実化し  
たという「教師X・Yの協働的ゲートキーピング  
の実証」に論点を定めた。

学術的・社会的意義の観点からは、社会科教育  
学界や一般社会における「生理（用品）」へのタブー  
性の「助長・再生産パラダイム」から「解体・再  
構築パラダイム」へと転換させる役割を一定程度  
果たすことができた。また、実践的意義の観点か  
らは、社会科教育実践史上初めて「生理用品の歴  
史」を単元化して従来閉ざされたままのゲートを  
開くとともに、単元成立過程として協働的なゲー  
トキーピングを言語化し、「空カリキュラム」を  
社会科の教室に導入する際の意味決定プロセスや  
環境整備の戦略を教育実践者や教師教育者に提供  
することができた。

一方、本単元を通して子どもたちがエンパワメ  
ントされ、「生理（用品）」について歴史的な見  
方・考え方を働かせながら自己や社会が持つタ  
ブー性について反省し、次なるアクションを起こ  
したことまで実証し、初めて本当の意味での「社  
会正義志向の社会科歴史教育実践」と言えるだろ  
う。したがって、「子どもの学習成果の実証」と  
いう本稿で論点としなかった研究課題が残されて  
いる。

## 【註】

- 1) 田中ひかる『生理用品の社会史』KADOKAWA、2019年。
- 2) M. Hunt & L. Metcalf. *Teaching High School Social Studies, Second Edition*, Harper & Row, 1968.
- 3) ソーントン, S. [渡部竜也・山田秀和・田中伸・堀田論  
訳]『教師のゲートキーピング』春風社、2012年。
- 4) 梅津正美「現在社会研究としての歴史教育」『鳴門教育大  
学研究紀要』18巻、2003年、pp. 167-178.
- 5) 長田健一「社会正義志向の社会科教育に関する研究の展  
開と方法」『社会科教育論叢』50集、2017年、pp. 101-110.
- 6) ショーン, D. [佐藤学・秋田喜代美訳]『専門家の知恵』  
ゆみる出版、2001年。
- 7) 前掲4
- 8) 吉永紀子「実践的省察を通じた教師の〈子ども理解〉の  
更新」『教育方法の探究』24号、2001年、pp. 31-38.
- 9) 金鍾成・河原光亮「生活科の授業デザイン・実施におけ  
る教師の役割に関する研究」『初等教育カリキュラム研究』  
6号、2018年、pp. 41-50.
- 10) 井庭崇「『コラボレーションによる学び』の場づくり」  
『人工知能学会誌』24巻、1号、2009年、pp. 70-77. 金鍾  
成・弘胤佑「社会科教育学と歴史学におけるコラボレー  
ションの意義と可能性」『日本教科教育学会誌』40巻、4  
号、2018年、pp. 13-24.
- 11) 村田一朗・小栗優貴・白石愛「性的マイノリティの包摂  
を目指した教科横断単元の開発研究」『日本教科教育学会  
誌』44巻、2号、2021年、pp. 15-27.
- 12) 玉井慎也「自己と他者のジェンダー・ステレオタイプを  
可視化する中学校地理単元の開発」日本シティズンシップ  
教育フォーラム研究大会、2021年10月3日発表資料。
- 13) 次の文献に教師Yの歴史的分野導入単元を構成する理論  
的根拠がある。①玉井慎也「歴史を捉える見方・考え方」  
草原和博・渡邊巧編『中学校歴史の単元デザイン』明治図  
書、2021年、pp. 40-45. ②玉井慎也「歴史的な見方・考  
え方のメタ認知を促す『学習としての評価』ツールの開発」  
広島大学附属東雲中学校研究紀要『中学教育』51号、2022  
年、pp. 1-10.
- 14) 玉井慎也・川口広美「『社会モデル』概念を活用した社  
会科教師の批判的省察に関する事例研究」『附属特別支援  
教育実践センター研究紀要』20号、2022年、pp. 85-95.
- 15) 表5では、教師の指示・資料提示を白黒反転（**■**の箇  
所）、主発問をMQ、補助発問をSQで表現し、生徒の学習  
活動や発言をSA、最終的な主発問に対する回答をMAで表  
現した。

## 【附記】

本研究の実施・公表段階における倫理的配慮については、  
広島大学大学院人間社会科学研究科教育学系プログラム倫  
理審査合同委員会による承認を受けた（承認番号：  
20210152）。

## 【謝辞】

本研究の実践・省察に関わってご協力をいただいたすべて  
の方に感謝いたします。

また、粘り強く学習を進めていただいたA中学校の2クラ  
スの生徒に敬意を表します。

公共財としての論文に社会に発信できたのもみなさんの  
学習のおかげです。